

学院

キャンパスだより

第10号



八戸短期大学生 八戸小唄流し踊りに参加

総合研究所の活動状況について

マネックス証券冠講座開講 ー八戸大学ー

八戸前沖サバの地域ブランド形成に向けて ー八戸大学ー

八戸小唄流し踊り ー八戸短期大学ー

第1回母親委員会趣味の会

「ガーデニング講座」開催について ー光星学院高校ー

ものづくりクラブ、イベント出前承ります！ ー野辺地西高校ー

総合研究所の活動状況について

平成19年10月の新組織体制からまもなく1年を迎えるが、この間の活動状況について、以下の通り報告する。

①受託事業の受入・外部資金の獲得状況について（平成19年10月以降）

- 18,840千円
- アジアにおける中小企業金融強化と信用情報構築（委託者：東南アジア諸国連合）
- 八戸市高齢者体操（ご当地体操）制作事業（委託者：八戸市）
- 介護福祉士養成課程の高度化への課題委託調査（委託者：社会福祉振興・試験センター）
- あおりみツーリズム人づくり大学「はやて2008」（委託者：青森県）
- キャンパスPCヘルプデスクセンター（委託者：株式会社ビジネスサービス）
- マリエントホームページ作成（委託者：特定非営利活動法人海の八戸NPO）
- 八戸大学同窓会ホームページ作成（委託者：八戸大学同窓会）

- ・みちのくふるさと貢献基金（地域ブランド構築に係る調査事業） 他

②対外的組織への参画について（新規分）

- ・あおりみ地域産業総合支援会議（21あおりみ産業総合支援センター）
- ・八戸広域観光推進協議会（青森県三八地域県民局）

③公開講座等について

- ・八戸観光大学講座（平成19年11月～2月実施 34名受講）本年度も計画中
- ・そうけん土曜講座（3資格取得講座、2教養講座を実施）
- ・国際理解講座（八大生とロシア語で遊ぼう 5月実施 21名受講 8月の講座は講師の都合により中止）
- ・福祉社環境コーディネーター3級受験対策講座（5～7月実施 20名受講）
- ・食生活アドバイザー3級受験対策講座（9～11月実施 受講申込受付中）
- ・公開講座（平成20年9～11月実施 20講座 受講申込受付中）
- ・簿記2級受験対策講座（平成20年11～

2月実施 受講申込受付中）

- ・IT教育研修会（平成20年8月7日実施）
- ・高度技術振興センターとの共催事業（経営ビジネスセミナー・パソコン教室等）

④広報拠点としての役割について

- ・商工会館ビル1階への学院掲示板・パンフレットスタンドの設置（7月中旬に設置予定）
- ・商工会館外壁や窓への看板の設置（交渉中だが厳しい）

※「八戸三社大祭」期間の市内オフィシリカレントルームの開放について（一部変更）

7月31日(木)・8月1日(金)・2日(土)・4日(月) 13:00～21:00まで

学院教職員と家族対象（飲酒・喫煙は出来ません）

⑤その他

- ・光星学院スポーツ健康科学研究会（大学・短大の体育の先生方が中心 毎月開催）
- ・研究所紀要「産業文化研究」第17号刊行
- ・教育・研究・社会貢献後援会事務局の総合研究所への移管
- ・八戸前沖サバブランド推進協議会関係

八戸短期大学と附属幼稚園の連携について



八戸短期大学附属幼稚園が開園して1年、幼稚園教諭・保育士を目指す幼児保育学科の学生が毎日のように附属幼稚園を訪れ、幼稚園の先生方の指導のもと、直接園児達とふれあうことによる実践教育の場となっている。

本法人の幼稚園については、八戸大学・八戸短期大学の教員と各幼稚園の教諭との連携に特長があるが、八戸大学と八戸短期大学の教員が附属幼稚園を訪れ、

園児達にネイティブスピーカーの英語レッスンや水彩絵具による造形表現、音楽によるリトミック指導を行うなど、大学・短大の教員と幼稚園の教諭とのコラボレーションが実現している。

このほか、八戸短期大学と附属幼稚園はネットワークで繋がれており、幼稚園内に4箇所設置されているWebカメラからの映像が短大内に送られ、園児達の行動状況などを研究・観察することができ、研究や授業でも活用が期待されている。教材等については、八戸短期大学後援会の協力の下、

多数の英語の絵本などを設置し園児が英語にふれる機会を増やすとともに英語レッスンの教材として活用するなど、附属幼稚園と八戸大学・八戸短期大学との連携が強化されてきた。

また、八戸短期大学幼児保育学科教員が中心となり附属幼稚園において未就学児の運動能力調査を実施した。調査では、20m走、立ち幅跳びや、ソフトボール投げなど7種目の運動調査を行い、その結果に基づき、体力向上につながる発育に有効な遊びや運動を教員と学生によって選び、保護者や各幼稚園に提案していくことを考えている。



野辺地西高校多目的室内スポーツ施設建設



野辺地西高等学校創立35周年記念事業として多目的屋内スポーツ施設（仮称）の新築工事が始まった。

建設工事に先立ち、8月19日(火)午前11時30分より、野辺地キャンパスにおいて、氏家と仁神父（塩町カトリック教会）様をお招きして、関係者参加のもと起工式を行った。

多目的室内スポーツ施設は、建築面積559.11㎡で、1階 鉄骨造（ラーメン構造）構造となり、野辺地工専専門学校駐車場に建設される。完成は10月中旬の予定である。

平成20年度後援会・同窓会・父母の会開催さる

○八戸大学後援会

八戸大学後援会（山田政信会長）の理事会は、6月13日16時より八戸第2ワシントンホテルで開催された。会議では昨年度の事業報告・決算・監査報告、今年度の事業計画・予算案が上程され原案通り可決された。

大学からの出席者である蛇口議長・鈴

木学長から近況報告がなされ、有意義な会となった。

○八戸大学同窓会

八戸大学同窓会（柳町仁会長）の評議員会は、6月13日19時より八戸第2ワシントンホテルで開催された。会議では昨年度の事業報告・決算・監査報告、今年度の事業計画・予算案が上程され原案通り可決された。

任期満了に伴う役員改選では、新たに副会長に林宗明氏（1回生）・大友淳一氏（4回生）、副幹事長に下坪之典氏（19回生）を選出、初代会長である坂本貴博氏（1回生）が顧問に就任した。



○八戸大学父母の会

八戸大学父母の会（家口和夫会長）の総会は、6月14日14時より八戸大学会館で開催された。会議では昨年度の事業報告・決算・監査報告、今年度の事業計画・予算案が上程され原案通り可決された。

特に、秋に開催される地区懇談会について、教員と保護者が直接に接することができる絶好の機会であるので、是非参加して欲しい旨養成がなされた。

終了後、教務・学生・就職支援担当職員による個人面談を実施、また総合実習館の見学会を開催した。



マネックス証券冠講座



八戸大学ビジネス学部は、平成20年度、マネックスビーンズホールディングス株式会社及びマネックス証券株式会社でイ

ンターネット証券などを実践するスペシャリストによる「マネックス証券冠講座（ビジネス特論Ⅰ）」を開設した。

4月より、2週間に1回、今年度完成した「総合実習館」で、「ネット証券・金融業の将来性」「金融商品と資産運用の基本」「ネット証券の経営戦略」など、ビジネス実践に即した講義が毎回行われた。受講生は、きわめて実践的な内容に、集中して聴講していた。

毎回、講義の要約と感想を記すレポートを課したが、「ネット証券についてわかりやすい噛み砕いた説明で、…アママ

プロも同じようなツールが使えるなど、ネットをより活用した形になるのは個人的には楽しみです」などの感想が示された。今後は引き続きこの講座が行われ、本学学生の重要な就職先として位置づけられることが期待される。



電波時計 寄贈

八戸大学・八戸短期大学総合実習館落成にあたり八戸大学及び八戸短期大学の外郭三団体（後援会、同窓会、父母の会）より電波ポール時計（2面）が寄贈された。

電波ポール時計は、7月26日（土）より工事が開始され、8月2日（土）に完成し、美保野キャンパス内学生会館前に設置された。



「北東北三県私立大学就職支援研究会」開催

昨年まで北東北三県の私立大学8校（ノースアジア大学、富士大学、盛岡大学、弘前学院大学、青森大学、青森中央学院大学、八戸工業大学、八戸大学）が合同で実施していた「北東北三県私立大学合同就職ガイダンス」は今年度より「北東北三県私立大学就職支援研究会」と名称を変更し、その第1回目が八戸シーガ

ルビューホテルで4月25日(金)に開催された。以前は学生を対象にセミナーとして開催していたが、近年、各大学で積極的に学内においてセミナーが実施されるようになった。そこで今回は、「ある程度その役目は終了したのではないか」と言うことで、「しばらく休止して必要に応じてまた再開しましょう」という結論に

なった。そこで、その間各大学の抱える諸問題等を率直に意見交換し、学生に充実した、かつ適切な就職支援を図るために、就職担当者の教職員で研修会を実施することになった。今回がその第1回目で本学が幹事校であった。

研究会では地元企業及び情報会社による講演を実施した。各講演終了後、質疑応答で積極的な意見交換があるなど、とても有意義な研修会を開催することができた。

内容は以下のとおりである。

講師：株式会社ユニバース 人事教育部人事グループ長 亀卦川 明氏

テーマ：「企業が求める人材」

講師：トヨタカローラ八戸株式会社 管理本部人事課係長 大久保 勲氏

テーマ：「会社の展望及び採用試験における着目点」

講師：株式会社リクルート HR仙台グループゼネラルマネジャー 浪木 克文氏

テーマ：「2007年度の総括及び2008年度の展望」

講師：株式会社ディスコ 東北支社長 菅野 健朗氏

テーマ：「2007年度の総括及び2008年度の展望」



本年度の新たな企画である大学4年生、短大2年生を対象とした「大学・短大合同企業研究会」を6月6日(金)八戸プラザホテルで開催した。例年は大学3年生、短大1年生を対象に年1回、12月初旬に開催していたが、今年度は人間健康学部生の1回生が卒業を迎える年でもあるが、毎年この時期の調査によると首都圏を中心に内定率が7割～8割の状況に対して、本学を含め東北地方の各私立大学は2割程度と、出足の遅さが際立っている。理

大学・短大合同企業研究会開催

由として挙げられることは、どの大学も学生の地元志向が強いことや地元の求人状況を見てからの就職活動を開始する学生が多いことなどが考えられる。そこで、「もっと学生に地元の企業を理解してほしい」、「採用試験に前向きになってほしい」、「就職をもっと真面目に考えてほしい」など、就職活動に積極性をもたせる

ため今年度6月にも開催することにした。

当日は地元企業を中心に28社の参加を頂き、学生は大学、短大を含め70名が参加をした。参加した企業は募集を

継続していることから、採用条件や会社の概略など詳細に説明をしていた。一方、学生も直接採用試験に繋がることから真剣そのものであった。

後日、参加頂いた企業や学生から感想など聞き取り調査を実施した。それによると、企業からは12月と比較して、学生が事前に会社の業務内容などについて調べてきているなど、随所に意欲を感じたと好感触の返答が多かった。また、学生からは「受験したい企業が見つかった」「企業理解に繋がった」などその成果を窺わせる意見が多かった。

今後、採用試験、そして内定に繋がることを強く期待される。



ジョブサロン

今年もやります「ジョブサロン」、回数も内容も充実されました。

昨年度始めて実施し学生に好評だった、業界・職種研究の一環としての「ジョブサロン」を今年度7月末までに計3回実施した。第1回目は金融・保険業界の分野で青森銀行本町支店の融資担当の大川由紀子氏、第2回目が医療・福祉業界で臨床心理士でありスクールカウンセラーでもある瀧澤志穂氏、第3回目が情報通信業界でシステムエンジニアの藤丸智幸氏をそれぞれゲストに迎え行われた。

ジョブサロンは将来の自分を見つけてほしい、業界、職種を理解してほしいと

の思いから企画し、全学年を対象に実施しているが、なかでも来年就職活動を控えている3年生の学生が多く参加していた。

学生も自分の興味がある業界、職種だけに、熱心にまた真剣な眼差しをゲストに向け、メモを取りながら「どうしたらなれますか」、「必要な資格は?」、など質問も次から次へとあり、ゲストの方も学生と年齢が近いことから親しみを持った話し方で学生達も理解、納得できた様子だった。

今年3月に卒業した学生の中には、ジョブサロンに参加し希望の業界を見つけ目標を達

成した学生、就職活動真只中の4年生にも早々に内定を取り付けた学生など、その成果は出ている。

今後の予定は、内定した学生とその採用担当者をゲストに迎え「内定書報告会」という形で、採用に関わる学生の取り組みや採用担当者の「採用した理由」などリアルな話が聞けるよう、就職活動を目前に控えた3年生には充実の内容になっている。



学生会主催 スポーツ大会開催！



平成20年度学友会主催のスポーツ大会が6月28日(土)光星学院総合体育館で開催された。スポーツ大会は、学生の要望から生まれた企画で2回目の開催となる。競技種目は昨年のバレーボール、バスケットボールからソフトバレーボール(3人制)、バドミントン(ダブルス)、卓球(ダブルス)に一新された。これ

は、少人数でもっと気軽に、より多くの学生が参加できるようにという学友会執行委員の思いがこめられている(タイトルも球技大会からスポーツ大会に変更された)。大会当日は、サークルやゼミの仲間などで結成された24チーム60名あまりの学生と教職員が参加。優勝を目指し各種目とも白熱した試合が繰り広げられた。点数が入るたびに歓声が沸きあがり会場内は熱気に包まれ、スポーツ大会を通して仲間との親睦が深まった。

バスケットボール部 復活

私達バスケットボール部は、今年度から強化指定部として新しいスタートを切った。まだ部員が少なく、1年生主体の男女合わせて13人しかいないが、一人一人が高い目標を持ち、日々の練習に励んでいる。

5月に行われた北奥羽春季トーナメント大会は、私達にとって記念すべき初めての公式試合だったが、女子が初戦を勝利したものの男子は、1回戦で敗退とい

う残念な結果に終わった。6月に行われた東北地区大学体育大会では、男子は、初戦を勝利し、2回戦で、昨年度インカレを経験している東北上位チームと対戦した。前半は相手のペースにのまれず食らいついていく事ができたが、後半は体力・集中力・技術・経験の差など、I部のチームとの差を痛感させられる試合結果となった。

現在は部員が少ないこともあり、練習内容も限られている。しかし、I部昇格を当初の目標に掲げ、一人一人がボールに触れる時間が多いなど少人数だからこそできる八戸大学の強みを生かした練習を行っていききたいと思う。来年度は、

インカレへの出場が実現できればと考えているので、どうぞ皆さん、応援よろしくお願いします。

副キャプテン：佐々木裕也(1年)



〔今後の試合日程〕

- ・第7回東北大学リーグ 二部北奥羽トーナメント(9/27～28)
入れ替え戦(10/10～10/12)
- ・東北大学新人大会(12/20～22)



櫻田 裕太郎 選手 (八戸大学硬式野球部 ビジネス学部3年) ハーレム・ベースボール日本代表選手に選出

財団法人全日本大学野球連盟に於いて、「ハーレム・ベースボールウィーク」及び「第4回世界大学野球選手権大会」における派遣選手選考会議で、八戸大学ビジネス学部3年、櫻田裕太郎選手が日本代表選手として選出された。

同大会は、オランダハーレムにおいて10日間の日程で開催され、櫻田選手は、中華台北戦に登板した。その中で「日本

で通用する球が通用しなかったり、ストライクゾーンの違い等様々な経験ができ、今後自分が成長していくための糧となった」と感想を上げ、「これから開催される秋季リーグ戦、北海道・東北地区王座決定戦で優勝し、全国大会に出場できるように頑張っていきたいと思います」と話した。

八戸前沖サバの地域ブランド形成に向けて



青森県の基幹産業の一つである第一次産業は、生産者の収益性が著しく低下している。第一次産業における諸問題が山積する中、私たちは八戸前沖で漁獲されるサバの素材の優位性に注目し、地域ブランドの形成に向けた活動に取り組んでいる。現在、取り組んでいる主な活動は、次のとおりである。

・八戸前沖サバだしラーメンの開発…水産加工会社から排出されるサバの頭と骨（未利用資源）を活用しながら八戸前沖サバだしラーメンを開発した。味は、港町のイメージにマッチした塩味である。



具材も一工夫し、チャーシューのかわりにサバの竜田揚げをトッピングしている。現在、十三日町のタケダスポーツビル4階の里山夢食堂で提供している。7月には、八戸短期大学附属幼稚園のバザーでも販売した。

・地元企業、高校、地域住民との連携事業の推進…地域ブランドは、地域内部の人々が協力し合うことにより、強いブラ

ンドに成長していくものだと考えている。最近では、千葉学園高校調理科の生徒さんが考案した「サバップル」というお菓子を地元の菓子店と連携しながら商品化した。現在は、鮫町の活性化を視野に入れた「サバのまち」の形成事業の展開に向けて、八戸南高校や鮫町の地域住民の方々とともに観光事業の構想を検討している。



このほかにも、県外の消費地での販売やアンケート調査、イベント参加など、様々な活動を行ってきた。今後も、地域の方々と一緒に八戸のブランド形成に向けた諸活動を展開していきながら、地域の経済波及効果を引き出せるような強い地域ブランドを構築していきたいと考えている。

八戸大学ビジネス学部3年 大村 晃弘

介護体験を終えて

6月上旬に私は、老人ホーム「見心園」という施設で5日間の研修をおこなった。初めは不安で自分に何ができるだろうと、頭の中は消極的な気持ちだった。

この研修で色々学ぶことができたが印象に残っているのは食事介助である。食事は一人ひとり違って、食べやすいように砕いていたり、ゼリー状にしてあったりと工夫してあった。できるだけ満足してもらえるように声をかけ食べさ



せるよう努力しようと心がけたが、最初はうまく口にも入れられなかった。その中で、介護員さんの指導や見本を参考に話しかけながら食事をさせ、その後の「ありがとう」という高齢の方の言葉はとても胸に響いた。「コミュニケーションをとりながら」というのはとても大切だと日を重ねるごとに強く感じていったのである。

私の「介護員」の最初のイメージは重労働はもちろんのこと、辛いというものイメージが大きかったが実際はそうではなかった。確かに重労働ではあるが、介護員さんの方たちはすごく楽しく常に高齢者の方を気にかけてとても愛情があった。短い5日間であったが、私にとっ

ては濃い5日間でもある。感謝の気持ちを込めて私は高齢者の方、介護員さん達にギターを片手に歌を贈った。拍手という大きなプレゼンをもらう中、私は一人の高齢者に握手を求められたが、たまたまその高齢者の方は言葉が出なかった。しかし満面の笑みで私の手を包んでくれた時には「ありがとう」と聞こえたのである。

たくさんの方々から色々学ぶことができ貴重な体験をさせてもらったことにとっても感謝している。これからこの経験を活かして私は目標である「保健体育の教員」を目指し、着実に一步を踏みしめて行きたい。

人間健康学部2年 太田 有美

教育実習を終えて

私は、母校の中学校において3週間にわたり教育実習を行った。実習を受け入れていただき、多くのことを教えて下さった実習先の先生方、生徒のみんなには感謝の気持ちでいっぱいだ。

実習の始めのうちは「先生」としての動き方など何もわからず不安が大きかったが、私は指導して下さる先生方の動きを観察し、多くのことを模倣することから始めた。その中で気づくこと、生徒や学生という立場からは見えてこない様々

なことなど、発見は本当に多かった。模倣することから始めた実習であったが、自分がその中で学んだことは多く、新しく自分なりに取り入れたいこと、展開したいことなども次々と生まれ、その都度、指導教官の先生に相談し、アドバイスをもらいながら授業を發展させることができた。

私がこの教育実習で学んだ最も大切なことは、自分が伝えたいことはしっかり

と持つ、芯のある教師を目指すということだ。このことを念頭に置き、今後の生活にも生かしていきたいと思う。実習における様々な経験・体験、その一つ一つが、将来教員を目指す私にとって非常に重要な、かけがえのないものになったと強く言える。



人間健康学部4年 岩淵 健良

去る6月29日、八戸市中心街において開催されたイベント「にぎわいストリートフェスティバル」において、八戸大学ビジネス学部3年生及び4年生（田中哲ゼミ）による「岩手・宮城内陸地震」被災者救援募金活動が行われた。

「にぎわいストリートフェスティバル」は毎年、6月と9月に八戸市中心街にお



いて行われる恒例のイベントである。今回のイベントでは、6月に発生した地震の被災者に対するお見舞いの意思を、中心街としても表明しようとの考えの下に急遽計画されたものである。そのことが日ごろ、中心街活性化の活動に参画している本学教員に伝わり、本学学生による募金活動となったのである。

当日は、肌寒い一日であったが、学生たちはフェスティバル本部となった青森銀行三日町支店前で、午後12時から3時



30分までの間、募金を呼びかける活動を行った。結果、35,193円の温かい心が集まった。

「八戸大学」OB&OG訪問 part10



（株）細谷地 お客様担当
野竹雄介さん

プロフィール

岩手県野田村出身。花巻東高校－八戸大学卒業(22回生)。
卒業後は郷里の企業(株)細谷地ガス事業部にて営業を担当。
学生時代は軟式野球部に所属

Q. 学生時代の思い出を聞かせてください。

A. 軟式野球部に所属し3年連続で予選を勝ち抜いて東日本大会に出場ベスト8まで進出したことです。

Q. 今も続けている野球についての話を聞かせてください。

A. 小学校から野球を始め、中学校時代は東北大会3位入賞しました。現在は地元の野球チームに所属し一応エースピッチャーです。

Q. 地元に残った就職活動は厳しかったと思いますが、当時の苦労話や現在就職活動をしている在学生にメッセージをど

うぞ。

A. 就職活動にあたって一番言われたのが「大学生は自分の力で就職を勝ち取る」ということでした。その言葉を胸に刻んで一生懸命探しました。いろんな人から情報をもらい地元の商工会議所や職安、ジョブカフェにも何度も足を運びました。

自分の力だけで限界があったので行き詰まったり悩んだりしましたが、就職支援課のみなさんのアドバイスの他、最後は同じ郷里の教職員に助けられ、今の会社に勤めることができました。

在学生の皆さんには、頑張れば必ず自分に返ってくるので、あきらめずに頑張ってください。

ほっ

と
たいむ

7月23日深夜(24日0時)に起きた青森・岩手沿岸地震により、美保野キャンパスにある大学の施設にも影響があった。図書館も例外ではなく、足の踏み場もないくらい本が床に散乱し、急遽、図書館を閉館せざるを得なく、

復旧作業に追われることとなった。しかし、その日は、奇しくも青森県内の大学等の図書館担当者が、八戸大学に集まり協議会を開催する日であり、図書館の職員は、館内の復旧作業よりも協議会の準備に追われており、幾許の余裕もない状況にあった。

そんな中、閉館にもかかわらず、幾人かの学生が図書館に訪れ、床に散乱した本の後片付けを手伝ってくれた。

一冊一冊、指定された書籍棚に収めてい

くことは、思った以上に大変な作業であるが、それを蒸し暑い中、汗だくになりながらも、黙々と丁寧に書籍棚に収めてくれた。

おかげで復旧作業が思っていたよりも捗り、翌日には通常通りに開館することが出来た。

これも自分達の時間を削りながらも、復旧作業の手伝いをしてくれた学生さんたちのお陰である。

八戸短期大学

平成20年度ライフデザイン学科 就職出陣式



平成20年4月22日(火)に「平成20年度就職出陣式」を開催した。この就職出陣式は、就職指導の時間を活用し、就職活動を行っている2年生が全員参加している。

出陣式では、内海隆学長補佐の「激励の言葉」の後、猪股清美就職支援担当課長より「平成21年度採用状況分析」の説明があり、学生達の表情は真剣そのものであった。学生を代表し、西館恵理菜さん(八戸南高校出身)と松橋美怜さん(八戸水産高校出身)が、「首都圏に比べ、地方の就職環境は厳しいが、積極的に就職活動を行い、必ず各自が希望する就職先に内定できるよう精一杯努力する」と力強い決意表明があった。最後に鈴木広督君(光星学院高校出身)による各学生の積極的な就職活動に向け、気合を高めるための喊声で就職出陣式を終了した。



地方の雇用情勢は厳しく、学生一人ひとりが希望する企業から内定を勝ち取るため、就職出陣式で見せた強い気持ちを持ち、就職戦線に臨んで欲しい。



6月16日(月)にライフデザイン学科1年生の講義「ライフデザイン論」で特別講義が行われた。このライフデザイン論は、個人の価値観、ライフストーリー、コミュニ

ライフデザイン学科特別講義

ケーションスキル、ネットワーク、パーソナリティなどに関する知識を修得し、自らの人生を自らの責任において主体的に決め、より良いものとするのが狙いである。

特別講師には、八戸市中心商業街区活性化協議会会長の岩岡徳衛氏を招聘し、「私と〇〇の将来」というテーマで開催した。この日学生たちは、一人ひとりが3分間のミニドラマ制作に挑戦

した。

ミニドラマの進行表を作成する際、BGMや写真をうまく取り入れ、地域を取り上げているものや、家族を取り上げているものなど、思い思いのミニドラマを作り上げた。多くの学生が「私と友人の将来」でミニドラマを作成し、発表の時は感極まって涙ぐむ学生もいた。学生たちは、このミニドラマ制作を通し、友人や家族、そして地域の素晴らしさを改めて体感できたようである。

八戸短期大学 スポーツ祭開催

学生会主催のスポーツ祭が6月4日(水)に開催された。このスポーツ祭は、ゼミ毎に分かれ、対抗するという形式。ゼミ生相互ならびに教員との親睦をスポーツで深めてもらうことを目的とし、毎年開

催されている。今年度は、開会式の他にオープニングセレモニーとして幼児保育学科2年生103名によるチアダンスが華やかに披露された。幼児保育学科2年生は



チアダンスを披露するにあたり、一致団結をし、練習を重ね努力してきた。その成果は、会場の学生や教員たちを魅了し、素

晴らしい結果をもたらし、最高のオープニングセレモニーとなった。種目は長縄跳び、ドッチビー、バレーボール、障害物リレーの4種目。午前中に長縄跳びとドッチビーが行われ、午後にはバレーボールと障害物リレーが行われた。白熱した戦いが繰り広げられた。



八戸小唄流し踊り

7月18日(金)八戸短期大学1年生114名が、八戸小唄流し踊りに初参加し、新たな彩りを添えた。



本番の前に幼児保育学科、ライフデザイン学科両学科ともに体育の時間や空き時間を利用し、体育館で練習を重ねた。

この流し踊りの講師には、泉流日本舞踊師範の泉紫峰氏と泉彩菜氏らから、踊りの指導をして頂いた。緊張をして練習に取り組んだ学生たちは「背筋を伸ばし、目線を遠くに」や「指先に気を配って」など、いかに美しく踊るかを細かいアドバイスを受け、踊るたびに上達していった。

当日は天候にも恵まれ、学生たちは普段着から着慣れな



い浴衣へ身を包み、色鮮やかな浴衣姿が、中心街を彩っていた。沿道で見ていた市民の方からも拍手が出るほど、八戸短期大学生が華やかな踊りを披露した。



砂

浜

彫

刻



7月16日(水)に幼児保育学科の学生205名が八戸市鮫町にある白浜海岸で、砂浜彫刻に取り組んだ。この砂浜彫刻は、幼児保育学科の学科行事。子どもの好きな活動である砂遊びを、学生が実際の体験を通して、幼少期を思い出すとともに、子どもと接する際に子どもの気持ちをよ



り深く理解できる場としている。また、八戸の豊かな自然から多くの学びがあることを知り、自然の素晴らしさなどを子どもたちに伝えられる保育者を目指している。

この日は気温が低く、曇りだった天候にも負けず、学生たちは浜辺を巨大キャンパスとして、思い思いの作品を制作した。童心に返り、彫刻づくりに励んだ学生たちは、ゼミ毎に分かれ「夢」というテーマに作品を制作。バケツで海水を汲んで砂を固めては形を整えていき、作品を約2時間か



けて完成させた。砂まみれで制作していた学生たちは「海水を運ぶのが大変」「ゼミが一つになって、うまく制作できた」などと笑顔を見せていた。

第 I 期 公 開 講 座 開 催

八戸短期大学が持っている知的財産を地域住民への提供と、リカレント教育の一環として卒業生に役立ててもらふこと。そして学生へ通常の講義では学ぶことができない専門的な部分を提供し、幅広い知識やスキル獲得をしてもらうことを目的として行われている公開講座は、昨年度から引き続き行われている。今年度

の公開講座は、第1期(7月4日～5日、7月11日～12日)と第2期(11月14日～15日、11月21日～22日の予定)の2期に分けて行うこととなった。

開催場所は本学で行い、開催時間は仕事に就いている人が参加できるように配慮して行った。第1期全講座で13講座(保育分野・福祉分野・情報分野・心理分野など)を用意し、その中から受講生

が興味のある講座を選択して講義を受けることができるように設定。第1期公開講座に参加していただいた人数は延べ85名。受講した方々から、様々な意見をいただくことができ、この意見を参考にしながら第2期公開講座に繋げていきたい。

実習で学んだこと

私は6月9日から7月12日まで特別養護老人ホーム福寿草インスプリングで第二段階施設介護実習をした。そこでは、実習を通して利用者主体の介護を学んできた。

介護とは、自力で生活することが困難な高齢者や障害者に関わり、その人の望む生活、その人らしい人生を実現させることだと思った。

私の受け持ち利用者は軽度の認知症と胃潰瘍を持っている。入所前の在宅生活では、寝たきり状態で食事をとることができなくなり胃瘻からの経管栄養だけだった。息子さんとの二人暮らしだったが介護が困難になり施設に入所した。その人らしさを理解するための情報収集を



した結果と、居室でコミュニケーションを図っているときの微笑みながら「家が一番です」というひと言から、元気になって早く家に帰りたい思いがあると感じた。在宅で生活できるためには食事がとれて、歩行や排泄など身の回りのことができることが必要だと思った。現在できている自力歩行、排泄の継続ができるよう、下肢筋力の維持をするために、好きな花を見ながら散歩したり、レクリエーションに参加したり、歩行訓練を活用した。同様に食事を美味しくとれるように様々な行事に参加し、体を動かす機会を増やすことにした。歩行訓練は特に痛みを訴えることもなく、車椅子よりも自力歩行を望み、歩行に対する意欲が見られてきた。実習期間中は昼食の進みに変化は見られなかったけれど、散歩やレクリエーションの時は笑顔が見られ、楽しんでいる様子だった。利用者さんの自己実現までのADL動作、排泄、食事を維持することを目標に援助をしてきた。

自己実現できるためには、その人の思いを知ることが重要だと思った。認知症



の方の望む生活、その人らしい人生を実現できるよう援助することが介護福祉士の役割だけど、利用者の思いを理解できない場合がある。その様なときに表現できるようコミュニケーション技術を通し、相手との距離、表情、動作、しぐさ、身振り、身体的接触、尊厳やプライドを傷つけない、人的・物理的環境などの環境作りも必要だと思った。

実習を通して得た利用者さんの主体性の重要性を、今後は認知症の利用者さんの思いを理解するために、表現できる人的・物理的環境作りや、お互いに共感ができ相手の立場に立って物事を考え、利用者さんが自立生活できる必要な援助をしていきたいと思う。

介護福祉科 2年 鷹架 舞
(光星高校出身)



5月14日(水)、八戸大学学生会館の2階会議室において、平成20年度の自動車科企業説明会が、県内の自動車ディーラー8社と関東地区の企業2社のあわせて10社の協力で開催された。

説明会は、自動車科の2年生34名が数グループに分かれ、各社のテーブルにつ

自動車科就職活動始まる

き説明を聞く形式で行われた。最初は緊張ぎみに聞いていた学生達も時間が経つにつれ和やかな雰囲気になり、会社の概要や仕事内容について様々な質問をしている姿が見受けられた。1社当たり20分をめどに設定していたが、担当者の熱心な説明などにより時間をオーバーする場面も見られた。

これから学生達は今回の企業説明会で得た情報をもとに、県内の自動車整備関

係を中心に就職活動を繰り広げて行く。



学生会だより 球技大会

7月18日(金)9時、競技開始のホイッスルで平成20年度専攻科球技大会が始まった。今年度は、自動車科がバレーボールとバスケットボールの2競技、介護福祉科はバレーボールとバドミントン、バスケットボールの3競技に熱戦をくりひろ

げた。中には3競技掛け持ちで出場する学生もいたり、普段では見られない表情で体育館を走り回る学生もいて、各競技とも盛り上がっていた。特にバスケットボールの決勝戦は介護福祉科の2年生チーム(女子2名出場)が、男子ばかりの自動車科2年生チームを大差で破る劇的な試合であった。暑い中での球技大会であったが体調を崩したり怪我をす

る学生もなく無事に終了することができた。学生会では、これからもラリー大会やボウリング大会などの行事を企画している。





6月27日(金)、東京・品川にある中華料理『高輪』において、平成20年度就職者激励会・同窓会を開催した。卒業生にとって、仕事にも慣れ同時に社会の厳しさに直面する、この時期に毎年行っている。激励会は、企業側から14名のご出席を賜り、今春の卒業生14名、学校教員5名の計33名の参加者だった。山西幸子校

関東就職者激励会・同窓会開催

長の激励の言葉に始まり、続いて企業側を代表して飯能開発株式会社『飯能グリーンカントリークラブ』代表取締役大崎光二様から卒業生へ激励のご挨拶をいただいた。その後、8名のOBの方々が加わり、総勢41名で同窓会が開催された。はじめにテレビ放送された光星高校新校舎のビデオ上映をし、OBの方々は、新校舎の完成を心から喜んでいた。また、新卒業生一人ひとりの自己紹介で、堂々と挨拶する姿に本当に驚いた。和やかなうちに会も進み、最後に第6回卒業生の菊地孝志様から、企業の方々へ若い後輩への励ましのお願いを交えた締めのご挨拶

をいただき、来年の再会を誓って同窓会を終了した。

ご出席下さいました、企業の皆様、OBの方々、新卒業生の皆さんに感謝申し上げます。



第1回母親委員会趣味の会「ガーデニング講座」開催について

光星学院高校のPTA組織は、大変活発で保護者の方々が多岐にわたり意欲的に活動をしている。

健全育成委員会主導での登校時一声運動や広報委員会が編集するPTA誌「東雲」の発行。

学年委員会によるPTA研修旅行の実

施や光星祭での各種活動など学校生活が大いに盛り上げてくれている。

その中でも今年度は、新たに母親委員会主催での「趣味の会」が発足した。

新校舎の完成にともない教育環境も十分に整い、多くの人に本校に来て貰いたいという趣旨から発足した。



記念すべき第一回目は、6月25日に本校理科室に於いて外部より先生をお招きしての初夏の花の鉢植え「ガーデニング講座」となった。

肥料の説明、花の特徴、鉢選びのポイントから始まり、実際に花を選び説明通りバランス良く鉢に植えていく作業をし、色とりどりの花が鉢に植えられ、最後に先生がワンポイントで仕上げをし2時間弱でそれぞれの鉢は色鮮やかに完成となった。

その後、本校の学食で講師の先生を囲んで楽しく昼食会を行った。

その席で指導していただいた先生より「今日の皆さんの鉢植えは、どれもほぼ同じ状態です。でも、一ヶ月後、二ヶ月後には、その家庭での育て方で全く違う作品になります。なんか子育てと似てますね。」という言葉を感じた。

とても有意義な時間を過ごせた。

本校では、7月31日(木)・8月1日(金)の2日間アクティブスクール(体験学習)を開催した。これは中学校三年生の皆さんに本校の授業を体験していただき、進路決定の参考となるように毎年開催している。

今年は新校舎で初めての開催であり、4学科8コースで9つのテーマを実施し

NEW KOSEI アクティブスクール

た。中学生、保護者を含め800名を超す参加者があり、各テーマごとに特色ある授業が展開されました。

各コースともテーマに趣向を凝らしており、中学生は緊張しながらも一生懸命取り組んでいた。特に人気の高かったテーマは保育Ⅱコースの「幼児の美味しいおやつを作ろう」では、定員を超える盛況ぶりだった。本校の特色ある授業を午前中体験して頂き、充実した

時間を過ごした様子だった。

第2回は部活動体験編として8月23日(土)を予定している。また、9月16日(火)にはオープンスクールと銘打って、学校見学会を開催予定である。



インターンシップで自分再発見

7月7日(月)から11日(金)まで5日間の日程で校外実習が行われ、予定通り無事に終了することができた。実習前の生徒たちは緊張した面持ちで、最後まで無事に終わることができるかと不安に思っているようでしたが、実習を終えた生徒たちの顔には一回りも二回りも成長した様子が窺われ、充実感が漂っていた。実習内

容は各企業によってさまざまだったが、どちらの企業にも共通している大事なことは「挨拶」「時間厳守」「責任感」などで、生徒たちはこれらの大切さを改めて知ったと思う。また、実際の現場での作業は学校の授業では学ぶことのできないものもあり、実社会の厳しさを肌で感じるにより、自分自身をもう一度見つ

め直す良い機会であったと思う。その中で今までは気づいていなかった自分自身というものを再発見できたのではないのでしょうか。5日間といえども充実した、内容の濃い期間であったと思う。実習を終えて生徒一人ひとりの目は今までになく輝いており、それは実習が有意義であったことの何よりの証明に他ならない。最後に、今回の校外実習にあたりご協力くださった各企業の皆様に心から感謝申し上げます。



高校総体、レスリング、ソフトテニス団体で連覇



6月6日に開幕した第61回青森県高校総合体育大会で、本校のレスリング部、ソフトテニス部がそれぞれ7連覇と6連

覇という偉業を達成した。

レスリング部は団体リーグ戦で、最近力をつけてきた新鋭高校に苦戦をしながらも、全勝し大会7連覇を遂げた。大会中はなかなか持ち味を出せず反省しきりだが、インターハイに向けて修正し、本当の戦いを見せると誓った。

ソフトテニスは順当に勝ち上がり、決勝戦進出。決勝ではライバル校に先にポイントを取られるという苦戦を強いられたが、最後は逆転で勝利

し、6連覇を達成した。勝ちたいという思いが勝利を呼び込んだ大会であった。

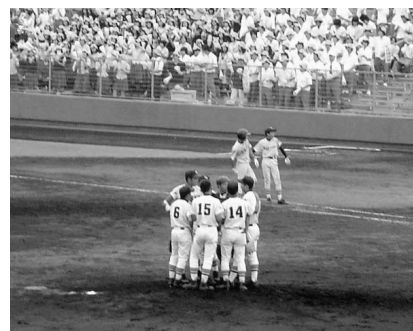


第90回全国高等学校野球選手権記念青森大会について

7月10日から23日までの日程で、参加75校による甲子園予選が行われた。ここ4年間、夏の甲子園から遠ざかっている



ことで、今年にける思いは例年以上のものがあ、厳しく練習を積んで大会に挑んだ。23日の決勝戦、戦前から予想された通り、対戦相手は、秋・春と敗れた青森山田高校だった。1年間選手達を鍛え上げ、今年は手応えみたいなのを感じていたが、試合はなかなか自分たちの野球をすることができず、結局0-4というスコアで敗れてしまった。試合内容はスコア以上に完敗であり、このままではなかなか栄光を取り戻すことは困難であると感じた試合でもあった。



今回のこの試合を糧に、また必ず全国で活躍できるチームをつくるため、この悔しさを忘れず“臥薪嘗胆”日々鍛錬していきたいと思う。応援して下さい皆様、本当にありがとうございました。

野辺地西高校



このほど、本校恒例の「関東地区就職者激励会」が5月30日(金)に東京の浅草で開催された。

この催しは数年に1回関東地区に就職した卒業生(就職者)を激励するもので、

勤めている卒業生が多い。長く勤めるためには、就職直後の半年間のうちに就職者に会って励ますことが有効ではないかと思われ、長年継続されている行事といえる。

先生、お久しぶりです！

～関東地区就職者激励会～

就職者の激励はもちろん、お世話になっている会社との親睦を深める機会を設けている。

本校からの県外就職先は、お世話になっている会社が大半で、先輩後輩の関係で長く

出席した就職者の発言(感想)では、「仕事楽しくて楽しくてたまらない」、「高校時代の仲間と楽しくやっている」、「社会人でもスポーツ(部活)を続けている」などと充実した感想が語られていた。

昨日まで子どもだと思っていた生徒諸君が、卒業してまもない3ヶ月足らずの間に成長して発表している姿に、参加した教員は目を細めていた。

遠足というと、景勝地(観光名所)や登山のようなものが多いが、本校の1学年の遠足は例年通りの景勝地(夏泊大島)の他に「人体の不思議展」を観覧することが実施された。

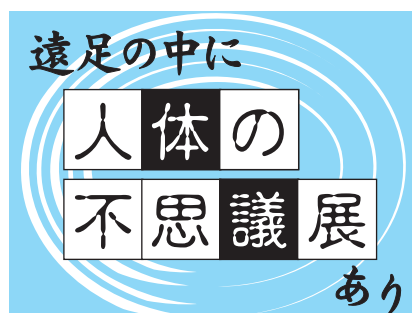
遠足としては同じような博物館見学はあることかもしれないが、たとえば万博や有名な博覧会はそれを逃すと二度と見ることがないように、世間で一番話題の展示を見学できるタイミングの良さが今回の遠足にはある。

テレビで話題のものでも、ふだん見る機会ができるわけではない。今回の企画はそれを満たす絶好の機会ではないかと思われる。

その遠足は、6月25日木曜日、「人体の

不思議展」、夏泊大島散策の二つの行程で実施された。

展示を見学した生徒の感想は、「模型が、



本物の人体であるのにビックリした」、「ちょっと生々しくてきつかった」、「健康について考える機会を持てた」、「宣伝

の効果って大きいんですね!」などいろいろであった。また入り口のポスター前で記念撮影する人も多く見られた。

一時間の見学の後に次の見学地に移動したが、変化のある内容であった。今後も親睦と学習とが実現できる遠足を企画したいと関係者は意気込んでいる。



ものづくりクラブ

イベント出前承ります！

このほど、5月17日(土)、東北町で「サイエンス・フェスティバル」が開催された。このフェスティバルは、地域の小中学生を対象に、参加型アトラクション等



科学にふれあう機会を提供するもので、毎年5月中旬に開催されている。この行事は今年で13回目である。本校のものづくりクラブも今回で6年連続の参加。多くの観客を楽しませてきた。

ところで、参加型アトラクションは近辺の大学や高校のクラブ(科学関係等)が協力して参加する形で行われている。本校のものづくりクラブもその趣旨に合わせた展示・アトラクションを行ってきた。

最初の時期は、ソーラーカーの走行や競技用ロボットの公開をし、最近では、熱気球の体験フライトと機関車ミニモデル

(「トーマス君」タイプ)の走行と変化をつけている。

開催当日は穏やかな天候であったが、やや風が強くて熱気球が途中で中止となってしまう、UFOキャッチャーと機関車ミニモデル(「トーマス君」タイプ)の走行にとどまった。

中でもミニ機関車(「トーマス君」タイプ)は会場のコースを何度も周り、常に満席の状況で子どもたちの人気を集めていた。

ものづくりクラブは一ヶ月に1回くらいの割合で地域のイベントに参加している。担当者は「今後も要請があれば、どこにでも出かけていきますので、連絡をください」と言っている。

保護者主催バザーで繋がる手と手



創立2年目の附属幼稚園では4月の職員会議で行事の見直しをした。昨年の反省をもとに、今年は作品展と同時開催していた保護者主催のバザーを、7月に展示会と切り離して実施した。園舎内では提供品コーナー・軽食コーナー、園庭では豚汁・焼きそば・串もちコーナーと、いつもの賑わいをみせた。特別参加として、八戸大学学生による「サバだしラーメン」の販売もあり、

始めて食した方にも「おいしい!」と、好評だった。

又、子育て支援室では、八戸短期大学学生が自分達オリジナルの「エプロンシアター」「大型絵本の読み聞かせ」で子ども達を喜ばせた。更には保護者のアンソニー先生による「Let's enjoy 英語で楽しいゲーム」はダンスもとり入れて参加者全員で盛り上がった。

今後とも、たくさんの人と出会うことで「発見」や「驚き」があることを大切にしていきたいと思う。「親子ふれあいの場」として今回のバザーが来年度へ繋



がる大きなステップとなった。

幼稚園と保護者の手をしっかりと繋ぐことで、新たな一歩を踏み出した今年のバザーだった。

聖アンナ幼稚園

感性という宝物



子どもたちの世界は大人のそれと違ってエネルギーで生き生きとしている。子どもは生れた時から、生まれつき内在的に備わっている優れた感覚を秘めている。出会うことひとつずつを新鮮に捉え、感じるという経験を沢山し、やがて情緒豊かな感性へと導かれていくのだと気づかされている。

「赤かぶの根っこ見てっ!」

「僕ね、おおきくなったらかぶとむしになるんだ」

「〇〇ちゃん泣かないで..」

「きれいな音~」、「絵本をくいいるように見る」

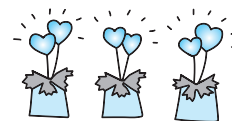
「外の方が気持ちいい~」「自然との戯れ」

などなど

子どもの日々の生活は正に“感性の宝庫”である。

幼児期は花が育つ土壌のようなものである。美しいもの、神秘的なものの新しいものや未知のものに触れたときの賛嘆や感激など、様々な形の感情が呼び起こされ、“もっと知りたい!”と思うようになる。すべてを自然にありのまま受け止める子どもたち、心と体が一体化し、やりたいものの興味、意欲、経験は、その子に感じる力を与えてくれる。感じる心は、生きている証でもあり、その人を表現する源にもなるのである。

子どもと一緒に自然を探検し発見してみませんか? この世の生き物が互いにかかわりあいながら生きていることを知るようになるでしょう。



びわの幼稚園



幼年消防クラブ認定式が行われる



びわの幼稚園では5月16日(金)、野辺地消防署のご指導、ご協力のもと避難訓練を実施した。

訓練では、始めて聞く非常ベルが鳴るなか、小さなハンカチを口元にあてがう園児たちは誘導する先生の指示に従い安全に避難することができた。訓練終了後、

ホールに集合した園児たちは「防災ダック」と呼ばれるカードを使用する教材を使い、災害時にとるべき行動、姿勢などの防災教育に取り組んだ。

園舎では避難経路、消火器の設置状況、使用年限などの防火対策点検をしていたき避難訓練が終わった。

このように、園全体の防火に対する意識が高まりつつあるなか、6月4日(水)には幼年消防クラブ認定式が幼稚園ホールにおいて行われた。

年中児11名と年長児2名の認定を受けた13名の園児たちは、背中に「防火」と記された赤い半纏を誇らしげに羽織り、かわいい「ちびっこ消防士」となった。

この幼年消防クラブは、園児たちの防災に対する関心を

高めることのほか、園児を通して、各家庭、広くは町民への防災意識の高揚を図ることを目的としている。びわの幼稚園では十数年来参加しており、今では地元消防署との一つの連携事業となっている。

昨年度の活動は、2008年6月までの設置が求められた「住宅用火災警報器設置」の周知を目的とする町内店舗前におけるPR活動、また、広く町人に防火を呼びかける防火パレードでは、年中児は拍子木を打ち鳴らし、「火の用心」・「火遊びやめよう」・「寝タバコやめよう」を発声し、年長児は鼓笛隊演奏を披露しながら行進し、防火についての広報活動に取り組んだ。

幼年消防クラブ認定式も無事終わり、今年度の活動は10月に行われる町内防火パレードとなった。町民の皆様の防火に対する意識の向上のため、園児たちの幼年消防クラブ活動はがんばります。



第二しののめ幼稚園



夏休み最初の土曜日。

園児や、未就園児、小学生ら地域の子どもたちが、きりん、ぞう組の年長さんが製作した「子どもみこし」を担いで「わっしょい、わっしょい、なかよしまつりだわっしょい」元氣な掛け声で登場です。いつのまにか園内も揺れるような大歓声で「なかよしまつり」の始まりである。

第二しののめ幼稚園では、園内施設を保護者や地域の方々に開放し交流の機会を提供しながら、幼児の教育の理解相談、情報の提供などをしていきたいと地域開放「ポケットひろば」を行っている。八戸短期大学生もボランティアで参加して、子どもたちを楽しませてくれた。

どんなコーナーがあるのかなあ。親子で、兄妹でお気に入りの場所を見つけていく。金魚やお花を折り紙で折るうち

楽しかったね、なかよしまつり

わ作り。紙粘土や、くねくね針金、ストローで素敵な指輪や、ネックレスの出来上がり。「これ、おかあさんに似合うかな」とつぶやくかわいい園児や弟妹さんたちに思わず笑みがこぼれた。

小学生たちは、よく飛ぶグライダー作りに挑戦。天道虫や、バッタの形を切り紙をつけると出来上がりだが、「簡単そうだけどよく考えなきゃ」なんて大人顔負けの会話が聞こえた。満員御礼のお楽しみコーナーはお菓子の千本釣りとスーパーボールすくい。一人一回のお約束にプーイングも起こるほどだった。どこからともなく子どもたちの歓声に誘われ、アンパンマンが登場すると、会場がひと



きわ賑やかになった。全員で輪になり、「アンパンマン音頭」を踊ったあとは、本園の教育活動の柱とすえている、自分の思いを「いつでもどこでも誰にでも、ものおせせず伝えられる子に育てて欲しい」との願いを持つ教師たちが、子どもたちに自分の思いを話してもらった「先生あのおね」タイムである。

作品を自慢げにみせてくれた未就園児。自己紹介を交えて学校での出来事を話してくれた小学生達にも、大きな拍手が起こった。

「ポケット」の名前のように小さくてかわいい、でも何が出てくるのかワクワクする。そんな思いや体験を、これからも子どもたちや地域の方々と共有していきたいと思っている。



八戸大学・八戸短期大学説明会

6月20日の八戸会場を皮切りに、7月4日弘前、7月11日盛岡の計3会場にて実施した。県内外から延べ33校39名の出席があり、1時間半という短い時間であったが、大学・短大2学部2学科及び現在申請中の看護学科について説明が行なわれた。

説明会では、特に各種資格取得支援を



特長とするカリキュラムが準備されている事を説明し、少人数教育へ力を注いでいる取り組みにも理解いただいた。また、本学の教員は、大学の教員、いわゆる研究者という範疇を超え、学生祭やゼミ活動等を通して学生との絆を深め、よき相談相手よき理解者になっていることも特長の一つであるというコミュニケーションを重要視した教育を展開していることを説明。そして現在設置認可申請中の看護学科については、総合実習館が今年3月最新の医療設備を整え完成したこと報告し、3年後の国家試験対策を見据えた学び方、認可後の具体的日程等について方向性を示した。

閉会後は、各校の先生方と直接意見交



換等ができるよう相談コーナーを設けたことにより本学への要望などを伺うことができ、今後新設予定の八戸短期大学看護学科のスタートに向け弾みをつけられた。

オープンキャンパス



毎年恒例のオープンキャンパス第1回目が7月19日に行われた。2008年のテーマは『八大・八短式5W1H』とし、8月、9月、10月と合わせて計4回の特別講義を実施する。一般的な5W1Hを高

校生に理解しやすいコンテンツにアレンジし、各回毎の看板講座となるよう組み立てている。今回は三浦文恵准教授（短大・ライフデザイン学科）による「言葉とコミュニケーション」を演題に実施。言葉に出さなければ相手に伝わらない事や、逆に会話しなくてもコミュニケーションができてしまう事があるなど来場者の興味を惹き付ける内容であった。

午後は「体験e-キャンパス」「健康とスポーツの科学」等の体験授業や、施設

見学を行い、高校生達にとっては普段触れることのない大学・短大を知る貴重な機会となったのではないかと感じている。

また、昼食で用意した学生の開発による「サバだしラーメン」もとても好評であった。

大学・短大とは自分自身を磨くことができる成長の場。オープンキャンパスで1人でも多くの高校生に、大学・短大の良さを伝えられるよう誠心誠意努めていきたいと思っている。

Column

タイム・イズ・ライフ【Time is life】

時間は命である。というお話です。よく、タイム・イズ・マネー【Time is money】『時は金なり』という言葉をお子さんの頃からよく耳にはします。これは、時間は貴重であり有効なものであるから、無駄に費やしてはいけないというアメリカの政治家ベンジャミン・フランクリンの言葉です。簡単に言えば、「時間はお金のように大事な物であるから、それを惜しんで大事にしましょう」ということなのでしょうが、実際には、時間の

方がお金よりも貴重な物です。何故かと言うと、使ったお金は、後で、稼げば取り戻すことが出来るからです。

でも、過ぎた時間は、どんなにお金を積んでも取り戻せないし、減っていくのみ、それに、どれだけ残ってるかも分かりません。つまり、自分の時間って、自分の寿命なわけです。

時間の使い方そのものが、人生をどうやって生きていくかということを決めています。

タイム・イズ・ライフ
【Time is life】

ライフ【life】＝人生＝命

こう考えた方が時間はいかに大切であるかイメージできると思います。今まで生きてきた過去はもうありません。昨日頑張れと言っても頑張れるものではないです。また、明日頑張るぞ！と言っても明日には何が起こるかわかりません。

人生とは、今、まさにこの瞬間のことなんです。（オリ）



寄付受理のご報告



(平成19年5月～平成20年7月末)

次の方々よりご寄付を賜りました。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。

光星学院イノベーションプログラム(基金)

基金総額 **62,404,243** 円 (協力者数346)

(順不同)

八戸大学父母の会様	(株) テクノ中央様	(財) 日本開発構想研究所様	スポーツ平井様
八戸短期大学後援会様	(株) 有馬道熱工業様	(株) 金入様	タニコー(株)八戸営業所様
八戸短期大学父母の会様	八戸プラザホテル様	(株) サトー防災様	東北電話(株)八戸様
清水建設(株)東北支店様	(有) 夏掘塗装様	(株) 溝江建設様	東日本電信電話(株)八戸支店様
八戸大学後援会様	(株) 内丸電装様	(株) 島津理化様	富士火災海上(株)八戸支店様
八戸液化ガス(株)様	(有) 一兆工機様	(株) ティエスビー盛岡支店様	(有) すきもと保育社様
八戸大学同窓会様	(有) 空寛様	(株) 八戸通信機様	みちのくリース(株)八戸様
(株) 三八五オートリース様	マネックス・ビーンズ様	(株) ビジネスサービス様	(株) 学園サービス様
三八五交通株式会社様	青森総合警備保障(株)様	アクシイズ ヤナギマチ様	セコム(株)八戸支店様

浦田隆様	種市香織様	中吉村忠子様	小松良重様	柳沢里美様	沼田岡裕一様
佐藤孝夫様	藤生佐藤様	田澤成奉様	戸小林嗣子様	藤周智一様	田中敬一文様
北澤美功様	出生齊村様	沢松寿秋様	小藤原真史様	伊藤中智子様	井場一保様
蛇口剛義様	村田村口様	村上渡康二様	岡沼本由美様	外崎田端川幸子様	倉達賢一様
村本百合弥様	山田大矢佐村様	小江出口芳章様	後村山官彰一様	附田関坂蒔丸小渡杉河三上岩道早村島小金丸坂小渡坂久保本島場竹高村	和田安兼中野山登中松田森館家馬藤古頭田吉細島早蒔小横加横高中加仲天太
向川幸一様	大若大工内前角松堀小野竹杉伊砂鈴木村官牛口木西藤坂内関沢谷邊	服部村浦澤海沢羽中野辺山當村本本網良鎌原濟宮美千生美靖志良	晴法栖板新沼村木宮山田澤藤深瀧小三篠渡金緑類岩織小笠山工	幸玲洋喜一幸規隆裕千育匡章知教貫允章貴祥靖昌富美夫	隆悦美則章仁正夫一修成文寛幸二嘉男司賀子康亨寛一基香
樋ノ口本野泰康正富敏武哲健真順賢雅真理彦留修順光茂	種市香織様	中吉村忠子様	小松良重様	柳沢里美様	沼田岡裕一様
佐藤孝夫様	藤生佐藤様	田澤成奉様	戸小林嗣子様	藤周智一様	田中敬一文様
北澤美功様	出生齊村様	沢松寿秋様	小藤原真史様	伊藤中智子様	井場一保様
蛇口剛義様	村田村口様	村上渡康二様	岡沼本由美様	外崎田端川幸子様	倉達賢一様
村本百合弥様	山田大矢佐村様	小江出口芳章様	後村山官彰一様	附田関坂蒔丸小渡杉河三上岩道早村島小金丸坂小渡坂久保本島場竹高村	和田安兼中野山登中松田森館家馬藤古頭田吉細島早蒔小横加横高中加仲天太
向川幸一様	大若大工内前角松堀小野竹杉伊砂鈴木村官牛口木西藤坂内関沢谷邊	服部村浦澤海沢羽中野辺山當村本本網良鎌原濟宮美千生美靖志良	晴法栖板新沼村木宮山田澤藤深瀧小三篠渡金緑類岩織小笠山工	幸玲洋喜一幸規隆裕千育匡章知教貫允章貴祥靖昌富美夫	隆悦美則章仁正夫一修成文寛幸二嘉男司賀子康亨寛一基香

千高	步江	崇健	久太	柳伊	沢藤	里周	美一	晴山	山岸	一德	貫貴	横吉	濱田	涼正	子幸	木今	村田	宏寿	治幸	桜吉	井田	みど	りみ
高橋	橋橋	恭信	平様	岩黒	館沢	周千	様一	山緑	川藤	徳真	様一	吉若	田松	宗基	幸仁	今島	田山	博純	幸美	吉田	田名	ひろ	牧子
高橋	橋橋	正	様様	吉蛇	沢田	直尊	様様	伊柏	木松	美良	様様	若仲	井田	宗基	仁基	島青	山葉	純慶	久喜	田扇	部藤	香未	子来
高橋	橋橋	孝	様様	鈴服	口木	浩宏	様様	小早	坂川	貴育	様様	鎌中	村刈	良清	寛文	岩田	中地	正高	様様	北保	山澤	恵美	子来
高田	橋口	孝	様様	岡小	部島	芳昭	様様	早藤	原合	真	様様	中金	居是	鈴香	文涉	田三	上三	高	様様	久保	田場	藤智	子隆
竹館	内脇	孝	様様	澤網	澤網	基賢	様様	道三	村西	弥幸	様様	安稲	加桑	翔俊	吾一	三石	三石	功実	様様	馬藤	倉澤	由美	子隆
田種	中市	香	様様	浦辺	浦辺	英	様様	三山	田中	敬保	様様	桑安	横赤	尚	一正	三若	三若	弘和	様様	松山	本慈	佳緒	子隆
玉田	村村	哲	様様	海山	海山	充俊	様様	田橋	場渡	文廣	様様	安横	松赤	俊博	学勝	鈴迫	森木	子豊	様様	久近	藤藤	かな	子隆
田内	藤村	勝	様様	山當	山當	光	様様	前松	井館	一精	様様	横赤	松類	和敬	文彦	大二	川橋	茂光	様様	大長	内山	咲幸	子隆
中輕	米畑	康	様様	本村	本村	春	様様	岩加	藤田	康和	様様	赤松	五十	敬	以彦	織松	橋田	悦郎	様様	秋板	橋義	子宏	子隆
中長	峯出	賢	様様	三本	三本	樹稔	様様	兼田	頭中	裕公	様様	池竹	芋池	治寛	亮子	武板	田橋	依里	様様	小笠	原田	厚健	子隆
生新	妻山	幸	様様	戸吉	戸吉	章弘	様様	田畑	中川	廣賢	様様	竹西	荒市	男一	一之	板岩	寺村	香江	様様	河久	村保	美信	子隆
新野	月田	順	様様	出三	出三	生子	様様	早法	官達	名田	様様	荒市	内小	一子	美博	小下	泉崎	子美	様様	高馬	橋場	崇	子隆
野袴	官坂	新	様様	矢小	矢小	美靖	様様	法安	蛇太	工小	様様	裕井	加下	清秀	一近	木小	田飼	由ま	様様	高馬	林平	子宏	子隆
法高	内坂	郁	様様	猪熊	猪熊	清	様様	安蛇	太工	小三	様様	明清	秀長	作代	様様	滝鶴	出川	香子	様様	馬林	野山	子宏	子隆
高小	浪関	始	様様	類藤	類藤	教公	様様	太工	山戸	倉登	様様	清秀	一近	作代	様様	東古	川合	絵子	様様	平星	原野	子宏	子隆
岩大	関牛	武	様様	金正	金正	裕夏	様様	太工	山戸	倉登	様様	秀長	一近	作代	様様	古古	岡岡	佳子	様様	小蒲	高橋	子宏	子隆
飼工	藤沢	美	様様	沼板	沼板	真智	様様	太工	山戸	倉登	様様	秀長	一近	作代	様様	古道	岡岡	佳子	様様	高橋	子宏	子隆	子隆
金佐	木邊	成	様様	岡中	岡中	富美	様様	太工	山戸	倉登	様様	秀長	一近	作代	様様	富富	岡岡	佳子	様様	高橋	子宏	子隆	子隆
磯小	笠原	良	様様	中	中	富美	様様	太工	山戸	倉登	様様	秀長	一近	作代	様様	馬高	屋高	久美	様様	高橋	子宏	子隆	子隆
島納	谷	淳	様様	中	中	富美	様様	太工	山戸	倉登	様様	秀長	一近	作代	様様	河原	木	祥	子隆	高橋	子宏	子隆	子隆

光星学院野辺地西高等学校 創立35周年記念事業への寄付金

19年度寄付金総額 **8,112,232** 円

(順不同)

野辺地西高校35周年協賛会	佐甲	藤田	敏保	彦光	佐青	藤山	裕純	子久	様
野辺地西高校同窓会	浅滝	野内	伸	悦進	伊二	賀谷	美寿	久模	様
野辺地西高校伊藤商店組合	(株)有馬	動熱	工正	所親	木今	村森	宏寿	逸治	様
野辺地町漁業協同組合	飼武	牛田	源三	郎茂	大			幸豊	様
野辺地町光一シマ	二齋	木藤	弘	実					様

光星学院高校スポーツフェスティバル



7月2日、3日の2日間にわたり、美保野キャンパスで毎年恒例の光星学院高校スポーツフェスティバルが開催された。

競技種目は、光星学院総合体育館で、バレーボールとバスケットボール、美保野キャンパスグラウンドではソフトボールとサッカー、短大体育館ではバドミントンとドッジボール、短大グラウンドではフットサルと綱引き、合計8種

目が行われた。

競技は、各クラス対抗で行われ、各クラスごとに赤や青などのおそろいのユニフォームに身を包んだ生徒達は、熱のこもった試合や応援をくり広げていた。



第10号表紙

八戸短期大学生 八戸小唄流し踊りに参加

毎年7月に行われる八戸七夕祭りの前夜祭のパレードで、八戸短期大学生（幼児保育学科・ライフデザイン学科）が今年初めて八戸小唄流し踊りに参加し、八戸の中心街を浴衣姿で踊りを披露した。



学院キャンパスだより第10号

発行 学校法人光星学院

編集 学院広報編集委員会

〒031-8566 青森県八戸市美保野13-98

TEL 0178-30-1411

URL <http://kosei.hachinohe-u.ac.jp/>